

平成30年第1回
上小阿仁村議会定例会
会 議 録

平成30年3月 2日 (開会)

平成30年3月15日 (閉会)

日程第4 一般質問

○議長（小林信） 日程第4 一般質問を行います。

質問の通告がありますので、発言を許します。7番 武石辰久君の発言を許します。7番、武石辰久君。

（7番 武石辰久議員 一般質問席登壇）

○7番（武石辰久） それでは、通告しております一般質問についてお伺いしたいと思います。

先ず1つ目として、農協の合併計画に伴う村の姿勢と支援・連携体制について伺います。

1つ目は、先に村に出されたとする「あきた北央農協上小阿仁支店存続に伴う要望書」の内容を伺います。

2つ目は、合併計画と要望に対しての村の姿勢と支援・連携体制についてであります。

村の「農業を守ること」は、村で生活していくための環境と恵まれた自然環境を守ることにつながります。また、農業の担い手の雇用の場を守ることもなるわけであります。

基幹産業である村の農業を振興発展させるためには、行政としての施策体制作りと、担当部門を強化することが求められます。そして、生産現場直結の農協と連携を密にすることが重要なことであると思います。

産業振興の立場から、合併計画のある農協と、どう連携し、どう支援していくか、村長の考えを伺います。

○議長（小林信） 答弁を許します。村長、小林悦次君。

（小林悦次村長 登壇）

○村長（小林悦次） ただ今、ご質問のありました「あきた北央農協」からの要望書についてであります。

あきた北央農協からの要望書の内容につきましては、あきた北央農協の平成26年度、27年度における加工事業の不振、不良債権の増加等により、2期連続の赤字決算で多額の損失金を抱えてしまったことや、自己資本比率がJAバンク基本方針である8%を大きく下回り、農協法の早期是正措置の対象となることが懸念されたことから、平成28年3月25日の臨時総代会で自力での再建は困難と判断し、近隣のJAの理解を得ながら、早期合併を目指すこととなったというふうなことが書かれております。

そして、これ以降、組織一丸となって経営改善に取り組みましたが、自己資本比率8%回復の経営改善には至らず、平成29年4月以降は、JAバンク監督官庁から信用事業譲渡、または、早期合併の選択を迫られているという

ふうなことであります。

信用事業譲渡を行えば、組合員に、これまで以上に不便をおかけすることになると考えられることから、総代会等で早期合併を望む声を踏まえ、平成 29 年 9 月に J A 鷹巣町に救済合併の検討を申し込んでおるようです。

J A 鷹巣町では、救済合併の方向で本日に至っているようであります。当然のことながら、合併にあたって J A 鷹巣町からは組織のスリム化等を強く求められ、その中で、支店の統廃合については、合川地区と上小阿仁地区に、各支店 1 ケ所を残すことで検討をしているとのこととあります。

合併に向かうには、上小阿仁支店一帯の土地や倉庫等の不稼動資産の処分売却が必要であるため、これら土地の買収をお願いしたいというふうな内容となっております。

2 番目の合併計画と要望に対しての、村の姿勢と支援・連携体制についてでありますけれども、J A では信用事業で集めた資金を運転資金として利用しておりますので、信用事業を譲渡することは、運転資金が全くない状況で営農事業や経営事業を行わなければならなくなります。

赤字の企業にお金を貸してくれる金融機関はありませんので、J A の経営はできなくなります。そうなれば、あきた北央農協自体が解散となります。解散を防ぐために J A 鷹巣町との救済合併を進めているとのこととあります。

上小阿仁支店につきましては、約 800 人の組合員と貯金残高約 51 億円、貸出残高約 2 億 4,000 万円となっております。これらのことは、村民にとっても重大な問題であると考えております。

支店の統廃合について、村は農林業を基幹産業として、農協の力をお借りしながら農家経営や営農指導、共済事業、金融について対応していただいております。支店が村からなくなれば、組合員である農家や金融機関を利用している年金受給者等の方々に大変な不便を強いることとなります。

高齢者や交通弱者の方々は北秋田市まで出かなければならなくなります。また、農協がなくなることは、人口減少している村に更なる人口減少を加速させることになるとともに、産業経済に大きな打撃となります。

このことは、村から学校がなくなると同様な認識を持っております。

上小阿仁支店の存続に向け、村としましては、たくさんの農家や利用者の利便性を確保するために、できるだけ支援させていただきたいと考えております。

なお、これに関連する予算を新年度予算に計上させておりますので、よろしくご審議のほどをお願い申し上げます。

○議長（小林信） 武石辰久君。

○7 番（武石辰久） 今、村長から答弁がありました。まず、村の特産品の生産、開発、販売については、農協、森林組合、商工会等各種地域団体の連携は欠かせないと思います。

上小阿仁村産のおいしいあきたこまち、プレミアム米や食用ほおずき、花卉、リンドウ等を主役とする特産品をブランド化し、国際姉妹都市提携の台湾を含め国内外に売り出していかなければなりません。それを軌道に乗せていくためには、農・商・工の連携が大変大事であると思います。村の産業振興、発展の方向に基づき、今後、合併農協との連携協議支援を図っていくべきだと思います。

また、雇用の場、職場としての農協でもあり、村唯一の民間金融機関である上小阿仁支店として是非残してもらいたいことと、農産物の集荷、営農、金融部門等の施設と対応できる窓口は是非残し、村にとって不便がないようにしていただかなければならないと思います。村として十分協議し、要望を出して行くことか必要であります。

土地、建物の購入についても活用策と事前に十分協議検討し、応えていくことが必要であると思いますが、このことについて、村長の考えを答弁願いたいと思います。

○議長（小林信） 村長。

（小林悦次村長 登壇）

○村長（小林悦次） 先ほどご答弁させていただきとおりに、農協の存続につきましては、大変重要な、村民にとっても、上小阿仁村にとっても大変重要な問題であると、そして、是非とも農協を残していきたいというふうな考え方のもとに、今回、予算を計上させていただいております。

予算の計上につきましては、予算委員会、総務産業常任委員会の中で予算審議がありますので、その中で詳しくご説明をしながら、議員の皆さんからのご意見をお聞きしながら進めさせていただきたいと考えておりますので、よろしくお願いを申し上げます。

○議長（小林信） 武石辰久君。

○7 番（武石辰久） 今後の協議、議論を踏まえ、農協へ上小阿仁村として要望を出すべきであります。

鷹巣農協との合併は、平成 31 年 2 月の予定と聞いておりますが、救済合併のリスクを乗り越え、1 日も早い経営改善を図り、市、村の農協合併が、農業振興と地域の活性化に結びつくことを願うものであります。

○議長（小林信） 答弁いららないということですね。はい、わかりました。

はい、武石辰久君。

○7番（武石辰久） 次に2つ目の集住型宿泊交流拠点施設の運営について、伺います。

1つ目は、今月3月完成、4月オープン予定の拠点施設の利用をいかにして高めるか。

2つ目は、施設の目的でもある多機能、多世代交流を推進する体制をどう作るか伺います。

新聞等では、3月9日まで2階のアパート6部屋、1階のレンタルルーム2部屋の入居使用者を募集しておりますが、その他、スポーツ活動、文化活動の合宿や農林業体験研修、宿泊研修、学校現地学習、企業研修等の利用の宣伝周知についてはどのように取り組んでいるか。利用をいかにして高めるか伺います。

○議長（小林信） 答弁を許します。村長。

（小林悦次村長 登壇）

○村長（小林悦次） 集住型宿泊交流拠点施設の運営につきましては、行政報告の中でも少し触れさせていただきました。

3月15日完成を目指して、急ピッチで今工事をしている最中というふうな状況であります。そして、4月1日から運営を開始したいということで、今、準備をさせていただいておるところであります。

施設の概要や設備、利用案内等につきましては、これまでも何回かご説明しておりますけれども、広報やホームページを通じまして周知をさせていただいております。

アパート、それからレンタルルームにつきましては、2月10日から申込みの受付を開始しております。これについてもチラシ等によりまして周知をお願いしながら、受付を今している最中という状況であります。そのチラシの中にも縷々詳しく内容を記入させていただいているというふうな状況であります。

また、設置条例、管理運営規則、利用促進のための補助金交付要綱を作成させていただきまして、今議会の中で、また、条例を上程させていただいておりますので、ご審議をいただきながら進めさせていただきたいと思っております。

なお、利用促進のための補助金交付要綱につきましても、活用させていただきながら、併せて予算措置もさせていただいておりますので、利用者の利便性を図りながら、利用効率を上げていきたいと考えております。

それから、多機能・多世代交流を推進する体制ということになりますけれども、この施設につきましては、皆さん方に何回かご説明をしているとおりであ

ります。

交流のエリア、それから宿泊アパート等のエリア、宿泊滞在エリアの3つのエリアを合わせ持つ多機能施設となっております。

それぞれのエリアが有効に利用されることが重要でありますけれども、建物中央の部分に交流エリアや会議室、それから畳の大部屋で多様な交流ができるようになっておりますので、企画等活用を、これからまた図らせていただきたいと思っております。

施設内には、放課後児童クラブもありますし、冬期間における高齢者の滞在も想定したものとなっておりますので、世代間の違う者同士の交流も期待しているところであります。

今まで、解体前の地域センターや生涯学習センターでの行われておりました交流事業、講座、行われていた交流事業等も含めて加えながら、この施設等で活用を進めていきたいというふうに思っております。

また、小中学生のスポーツ交流、武蔵野大学をはじめとします県内外の各大学における研修やワークショップにも活用のために今一生懸命、いろんなところに活動をさせていただいている状況であります。

以上であります。

○議長（小林信） 武石辰久君。

○7番（武石辰久） マスコミ、ホームページ、ネットワーク等のPR以外に、やっぱり足を運んでやっていく営業が必要だと思います。村長をトップとして各課担当の職員はもちろん頑張っていただかなければなりません、より多くの村民に各部門の協力をお願いし、営業マンになっていただいたらどうでしょうか。

遅れていることは否めないと思いますが、早めに周知宣伝をし、利用の呼びかけをお願いしたらどうでしょうか。

村長の考えがありましたら、お聞かせ願いたいと思います。

また、施設の特徴を活かし、意識的、計画的に各機能、各世代交流の場をつくる必要があると思います。推進体制は、各課、各団体の協力を得て、既定の行事の活用や、新しい交流行事の企画で取り組んだらどうでしょうか。また、入所者連携の自主企画も考えられると思います。

この点につきまして、さらに村長の考えがありましたら、お願いしたいと思います。

○議長（小林信） はい、村長。

（小林悦次村長 登壇）

○村長（小林悦次） 今、いろんなご意見をいただきまして本当にありがとうございます。

役場職員含めて、いろんな形で営業をしないといけないというふうに思っております。そういう意味では県内、県外の大学、高校、小中学校含めて、今ある村の施設を活用しながら、そして、集住型の施設を活用できるようないろんな行事等も検討させていただきたい。そして、各部門における村民の方々のご協力をいただきながら、やはり、役場職員だけではなかなか難しいところがありますので、いろんな形でご協力をいただきながら村一体となって、この事業を進めさせていただきたいと思っております。

今後、いろんな形でご提言、ご協力をいただきますようお願いを申し上げます。

○議長（小林信） 武石辰久君。

○7 番（武石辰久） 最後に、長い名称の施設でありますので、是非、愛称をつけ、各世代交流の取り組みを強めて、利用したくなる交流拠点施設にするよう頑張ってくださいことを切望しまして、私の一般質問を終わります。

○議長（小林信） 以上で、武石辰久君の質問を終わります。